

大学等名：東日本国際大学

テーマ：テーマV（卒業時における質保証の取組の強化）

ICEルーブリックによる構造化された評価言語の生成とそれによる全課程の構造化と質保証 ディプロマ・ポリシーに表現された諸コンピテンシーを分かりやすい動詞を用いた表現に分解し、コンピテンシー表現バンクを作成することで、それらの育成を全学的に個々の科目の学修目標に比較的低コストで取り入れる仕組みを整備、ICEルーブリックを介して学修目標＝評価基準として学生にも分かりやすく、授業設計にも生かせるようにする。またコンピテンシー表現バンクを利用することで、分かりやすいディプロマ・サブリメントを作成し、「批判的思考力」といったそれ自体としては必ずしも分かりやすくはない表現を多様な外部のステークホルダーや人材と共有し、学修目標としての有効性を検討、大学全体の教育活動のPDCAサイクルを回せるシステムを開発、実施、公開する。

評価指針・学修目標の明確化

教員は現実的なコストで自らの授業にディプロマ・ポリシーの要素を学修目標として組み込む授業設計が可能になる。

各授業

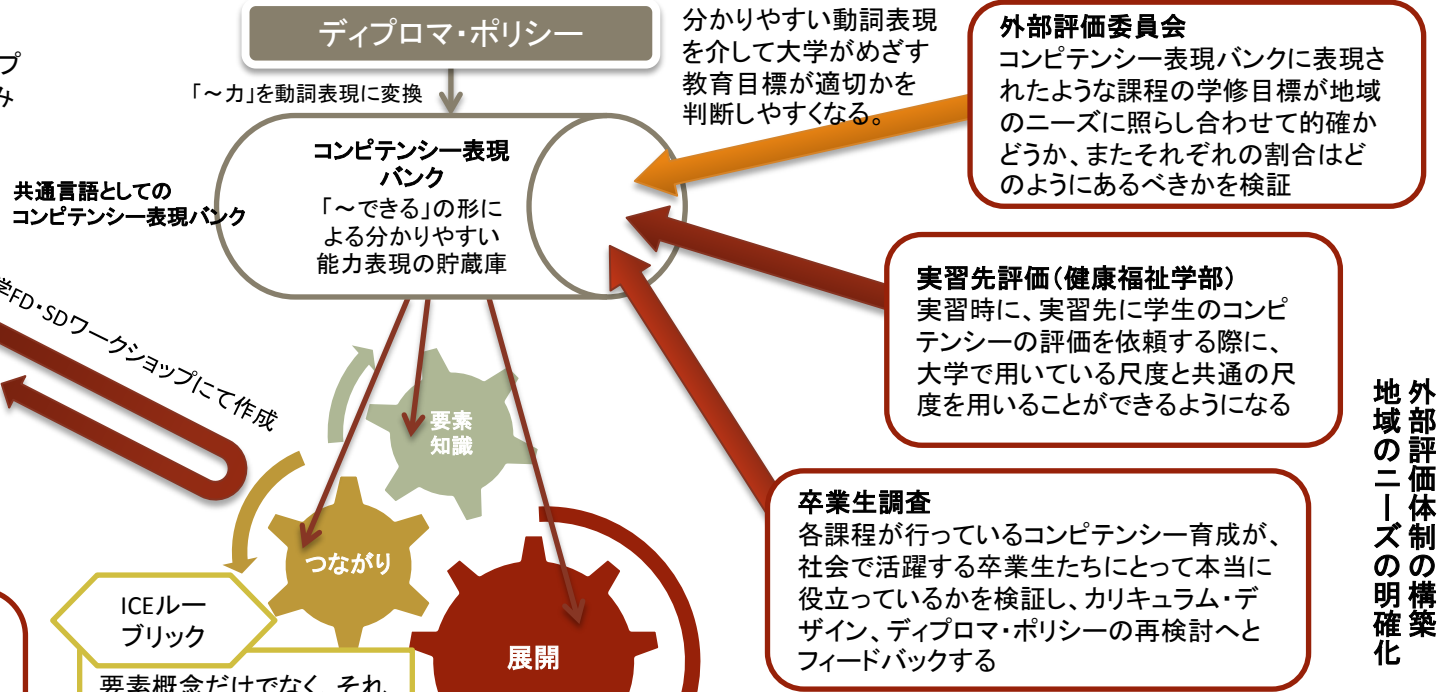
2～3のコンピテンシーを各授業で育成。表現バンクの表現を用いてICEルーブリックを作成することで、学修目標＝評価基準が明確に

学生はすべての授業で、知識内容に加えどのような学びが期待されているかを確実に理解し、意識化できるようになる。

ディプロマ・サブリメント

各授業で2～3ずつ積み上げながら伸ばしてきたコンピテンシーの総体が、課程全体での学びの成果として、「実際の点数/科目毎の配分点総計」の形で表示されレーダーチャートで一目で分かるように示される

知識内容に加え、他にどのような力(コンピテンシー)を身に付けてきたかが、各授業での平均として示されるので、社会に対して課程全体としての学修成果の客観的提示を行うことができる。



【事業の成果】

	27年度 (実績値)	28年度 (目標値)	29年度 (目標値)	31年度 (目標値)
学生の授業外学修時間(1週間当たり)	7.1時間	7.8時間	9.6時間	16.0時間
卒業生追跡調査実施率(調査回答者数/卒業生数)	—	20%	24%	30%
ICEルーブリック導入授業	—	2科目	10%	70%